volume 98
JUNE 2006

HABATAKI
はばたき
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

52-1 Yada,Suruga-ku Shizuoka-shi Shizuoka-ken 422-8526 Japan

inside NEWS

●CONTENTS●

平成18年度入学式……1
平成17年度卒業式……5
著書紹介……8
平成17年度厚生労働科学研究費補助金採択実績……9
平成18年度科学研究費補助金採択状況……9
研究助成採択……11
外部資金受入状況……11
教員の人事……11
平成18年度年間行事予定……12
図書館だより……13
公開シンポジウム「岡村昭彦の全体像に迫る」……15
はばたき寄金からのお知らせ……16
留学体験記……17
クラブ・サークル紹介……21
開学記念行事……22
谷田風土記……23
21世紀COEプログラム合宿……23

平成18年度静岡県立大学学部・短期大学部、大学院入学式

平成18年４月10日、静岡市駿河区池田のグランシップ大ホール「海」において、県立大学として初めての学部･短期大学部及び大学院合同の入学式が行われました。式典には、石川嘉延県知事、中澤通訓県議会副議長をはじめ、多数の御来賓に出席していただき、学部･短期大学部及び大学院を合わせて994名の新入生及び保護者の方を前に西垣克学長が式辞を述べました。また、新入生を代表して、食品栄養科学部の増田竜也さんが誓いのことばを述べました。

式典終了後、新入生の門出を祝福するアトラクションとして、社会福祉法人富岳会の皆さんによる勇壮な「富岳太鼓」の演奏が行われました。

入　学　式　式　辞

静岡県立大学　学長　西垣　克

平成18年度の静岡県立大学学部及び短期大学部並びに大学院に入学された皆様方に、県立大学の全ての教職員を代表して入学おめでとうと申し上げると同時に、心から入学されたことを歓迎いたします。また、入学に至るまでの勉学の努力に対して敬意を表したいと思います。

あわせて、本日の喜びを皆さん方以上に心待ちにされ、皆さん方の勉学に対して物心両面から多大な支援を続けて頂いた、御家族並びに御親族の皆様方に心からお祝い申し上げます。

例年になく寒さが厳しい冬が終わり、桜の開花と満開は早い春になりましたが、県立大学の桜は何とか皆さん方の入学を待っていてくれました。昨年の入学式は、県立大学の学部と大学院、それと短期大学部と分かれて行いました。しかし、皆さん方も御存知のように県立大学は来年、平成19年度から法人化され、統合した運営形態になることから本年の入学式は大学と短期大学部が合同して、会場もこのグランシップに移して挙行することになりました。年度始めの何かと御多用なところ、大学の設置者であられる石川知事をはじめ、県議会副議長の御臨席を頂き、かつ多くの県議会議員の皆様方、並びに浜松医科大学寺尾学長、静岡福祉大学加藤学長の皆様方、臨床実習で大変お世話になる藤枝市立総合病院の金丸院長をはじめ病院関係の皆様方、

さらに日常的に大学の運営に多大な御支援を頂いている後援会の皆様方、及び学生への奨学資金を提供して頂いている皆様方など多くの御来賓の方々に御臨席頂き、心より厚く御礼申し上げます。

また、本日は、式典の後に社会福祉法人富岳会様の和太鼓の演奏をお願い致しました。この施設に通う皆さん方のひたむきな鍛錬による演奏は、本日からの勉学に当たって決意を新たにして頂けるものと確信しております。

我が国の公立大学は、法人化という大きな制度変革の渦中にあります。既に全ての国立大学は、この新しいシステムに移行し、それぞれの大学で多様な改革が進められています。県立大学は設置者であられる知事の大学に対する高い見識と県議会の深い御理解により、公立大学としてこの法人化と大学改革を全国的にも例がない、大学の自主性に基づいた主体的な活動として、設置者との密接な連携により着実に進めてまいりました。今回入学された学生の皆さんからも、これらのことについて問い合わせを頂きましたが、全ての情報は公開して進めていきたいと考えています。これからも日常的に、大学の改革計画に従って様々な取り組みが予定されております。この計画には十分に学生の皆さん方の意見も反映できるようにし、在校生の先輩方とよく検討をして県立大学の発展に寄与する提案をして頂きたいと考えています。

法人化は主として大学の設置形態の変更ですが、以前よりは大学の主体的な経営と運営責任が大きくなると考えています。全国的に大学の改革は、この設置形態の変革だけでなく、それぞれの大学で様々な大学自身のあり方について改革が進められているのです。我が国全体の大きな社会問題となっている少子高齢社会への移行により、大学入学生の急激な減少が予測され、全ての大学においてより魅力のある大学の構築という競争が始まっているのです。

この大学改革は、この時期だけ実施すれば済むものではありません。社会に存在する組織として、いつの時代にも大学自身の努力で行っていかなければならない課題であったのです。中世ヨーロッパに始まった大学という高等教育機関の制度的な疲弊が、世界的に進行してきた結果と考えられています。これからの県立大学は、どこに向かって改革を進めようとしているのでしょうか。

まず第一に、県立大学はいかなる時代であってもその存在価値が認められ、設置者である県民の皆様方に設置されていてよかったという評価と、精神的文化的に誇りを感じていただけるような大学を目指しているのです。次に、県立大学は静岡県をキャンパスとして県下の様々な資源を活用して学習し研究を行い、学術的並びに学問的成果を基に、地域社会の発展に寄与できる大学でありたいと考えています。さらに、県立大学は学生や院生の皆さん方のキャンパスライフにおけるQOLを、高い水準に保つように勉学環境の整備を進めていきます。この具体的な活動として、本年から学生部、並びに図書館や健康支援センターの教職員による入学ガイダンスが既に先週から開催されております。大学生として勉学に励むことはもとより、近年は大学も社会の構成員であることから社会で生じている様々な危機、例えばオレオレ詐欺、マルチ商法、交通事故などに遭遇してきており、社会人としての自覚と自己責任に基づくキャンパスライフを学んでいただきたいと考えております。

特に、本年からは、語学学習については習熟度別教育を実施し、学習能力を飛躍的に向上させる体制を計画し、順次他の教科にもこのシステムを拡大していけるような計画を立てています。県立大学は、学習し勉強する場であり、卒業までにしっかりとした学習による知識や経験を身につけていただけるような、教育支援体制の確立と教育環

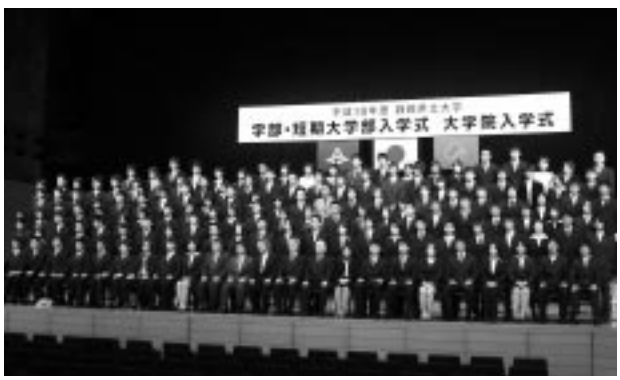
境を整備いたします。入学された皆さんが入学してよかったと評価してもらえる大学になりたいと考えています。

学部並びに短期大学部に入学された皆さんには、ぜひ大学での勉強方法を早い時期に理解し、身につけていただきたいと思います。大学での学習は、皆さん方自身で勉強する科目を選択し、どのような自分になるかを考えることから開始されます。高等学校のときとは異なり、決められたカリキュラムに従うのではなく、計画的に学ぶカリキュラムを自分で構築して勉強することが大学での勉強なのです。これが大学における勉強の仕方であり、講義を聴くだけではダメで、一単位は講義と同じ時間の予習と復習が必要なことを肝に命じておいてください。一知半解という言葉がありますが、これは早分かりの浅知恵を戒めた言葉だと思います。簡単に分かったというのではなく、とことん考えて考え抜く勉強法を身につけてください。近代哲学の父といわれているデカルトは方法論序説という書物の中で、近代的な合理的思考を考える際に「われ思うにわれあり」という有名な言葉を残していますが、全てを真理に照らして疑う中で、知的な自我だけは確実な存在として認識する必要性を説いています。

世界的に大学が一部の人々の高等教育機関から大衆化する中で、消費者行動と同様に、学生は王様だという風潮が大学のあり方に多大な影響を与えてきました。大学にとって学生の確保は、その存続にかかわる問題としてとらえられ、学生は何をするのも自由であり、学生のわがままが大手を振って横行する大学も存在するのです。

我が国と同じく、第二次世界大戦により国家崩壊を生じたドイツのハイデルブルク大学の哲学者カール・ヤスパースは、戦後まもなく出版した「大学の理念」という書物の中で「理念における生活の中の自由というものは、一見すると危険な結果をもたらすものであります。こうした生活は、自分自身の責任に基づいてのみ成熟されるものであるのですから、学生というものは、既に自分自身へとつき返されるものなのです。学習の自由は、教授の自由から発生するものです。いかなる権威も、いかなる指定された生活指導やいかなる形式的な履修指導も、学生を支配するものであってはなりません。学生は堕落する自由ももっております。」と述べているのです。ヤスパースによる大学の理念に基づいて、大学を形作る重要な構成員である学生に対して厳しい箴言を残しています。ナチス政権下で12年間ドイツの大学が道義的崩壊を経験した哲学者の警告は、現在の我が国の大学においても十分考慮されなければならないことと考えています。

最後に、本日入学された皆さんは、これからの学生生活を人生の最も実り多い時期として、ひたむきに勉学に励んでいただけることを希望して式辞と致します。



誓いのことば

新入生代表　食品栄養科学部食品学科１年　増田　竜也

暖かな春の光が降りそそぐこのよき日に、私達は憧れの静岡県立大学に入学することができました。本日は、私たち新入生のために、このような盛大な式を執り行っていただき、誠にありがとうございます。

また、ただ今は、西垣学長先生、石川県知事、中澤県議会副議長から温かく、心強い激励とお祝いのお言葉をいただき、新入生一同大変感激しております。心から御礼申し上げますとともに、今日の気持ちの高揚をいつまでも忘れず、常に志を高く持ち、勉学に勤しみたいと思います。

私は、中学生のときから静岡県立大学の食品栄養科学部で学びたいと思い続けてきました。中学生のときから私はテニスをしていて、筋肉増強やコンディショニングのための食品の摂取方法を研究してきました。さらに高校生のときは健康増進のための食品の摂り方にも関心が高まり、生活の１つのテーマとなりました。そして今、憧れであった静岡県立大学でこれから思う存分学ぶことができることを大変嬉しく思っています。ぜひ大学院に進学し、食品開発の方法を専門的に学び、将来は食品開発員として社会に貢献していきたいと思います。

さて、現代社会は遺伝子組み換え技術、クローン技術などのバイオテクノロジーが発達し、青果物、畜産などの分野に大きな進歩をもたらしています。そのため、私達は自分達の嗜好にあったものをいつでも手に入れられるようになりました。しかし、広い視野で世界を見てみると、「緑の革命」後多少は緩和されましたが、先進国ばかりが飽食で発展途上国は深刻な食糧不足という「食料」での南北問題が広がっています。同時に、食料の大量消費に伴う大量の廃棄物の問題も私達に突きつけられています。

また、現在、「安全性」が問われることが非常に多くなり、「安全性」について人々の注目が集まっています。建築物の耐震偽装問題、ＢＳＥ問題、ダイエット食品問題など「安全性」をおびやかす事件が次々と明らかになってきています。「安全性」がここまで問われたことは今までにないことです。私達はこれら現代、そして未来の諸問題に立ち向かっていく必要があります。我々一人一人が真剣に取り組んでいけば、必ず解決の糸口が見出せるはずだと信じています。

本日、入学を許可されました994名は、志す分野はそれぞれ異なりますが、これからの21世紀の担い手となるため、切磋琢磨し、日々修養に励んでまいります。

私達は、今日から大学生として新たな一歩を踏み出します。これまでとは異なった環境で生活するわけですから、不安なこともあります。しかし、大学生であることを自覚し、広い視野で物事を見渡せるよう、様々なことに挑戦していきたいと思います。そして将来、社会に貢献できるように成長していきたいと思います。

西垣学長先生をはじめ、諸先生方、諸先輩方には、厳しくも温かい御指導をいただきますようお願いいたしますとともに、今日の決意を常に忘れず、日々精進して参ります事をここに誓いまして、誓いの言葉とさせていただきます。

平成17年度静岡県立大学学部・短期大学部卒業式、大学院学位記授与式

平成18年 3 月15日、静岡市駿河区池田のグランシップ大ホール「海」において、県立大学として初めての学部･短期大学部合同卒業式及び大学院学位記授与式が行われました。式典には、石川嘉延県知事、大橋正己県議会議長をはじめ、多数の御来賓に出席していただき、学部･短期大学部及び大学院を合わせて896名の卒業生及び保護者の方を前に西垣克学長が式辞を述べました。

卒業式・学位記授与式式辞

静岡県立大学　学長　西垣　克

ここに、平成17年度の静岡県立大学学部・短期大学部卒業式並びに静岡県立大学院学位記授与式を執り行うにあたり、教職員を代表して式辞を述べさせて頂きます。春の陽気は三寒四温と古来より言い表されておりますが、昨日の浜松方面での雪は去り、春の陽光に見守られて、平成17年度の卒業式並びに学位記授与式が行われることを心から喜んでおります。

この式典には、年度末の大変御多用な中、わが大学の設置者であられる静岡県石川知事をはじめとして、大橋県議会議長様、鈴木県教育長様、加藤静岡福祉大学学長様、木宮浜松大学学長様、神原県立総合病院院長様、名誉教授の先生方、学生に奨学金を頂いた団体の代表の皆様、後援会の皆様など多くの御来賓に御臨席いただき、心より厚く御礼申し上げます。

本年度の式典は、県立大学として初めて、学部・短期大学部並びに大学院の合同の式とさせて頂きました。いうまでもなく、この式典は、それぞれの学部において所要の単位を修得し、卒業資格が認定された皆さんと、大学院の課程を修了され、それぞれの学位記を授与される皆さんを大学として祝福し、送別する厳粛な行事であります。

ここに、これらの資格を勉学において研鑽し、修得された卒業生並びに大学院生の皆さん方に心からお祝いを申し上げます。また、卒業生の皆さん方以上にこの日が来るのを心待ちにし、長い年月において皆さん方の勉学を物心両面で支えて頂いた御両親をはじめとする御家族の皆さん方のお喜びは、いかばかりかと拝察する次第であります。

谷田キャンパスの学部の皆さん方は、入学された時は図書館長としてお迎えしたことを思えば、私個人の感激もなおさらであります。長いようで振り返ると光陰矢のごとしという言葉が浮かびますが、この卒業式までの間多くの書籍を繙いて勉学に励まれたことと思います。大学における学びは、自分でカリキュラムを作り自己研鑽する過程であります。皆さん方は果たして、何冊の古典を手にしたでしょうか。一度読んでも理解出来なかった書物に出会えることはあったでしょうか。卒業にあたって今一度、学生生活を振り返ってみて下さい。皆さん方は、これから生涯学習という新たな学校に進学するのです。これからの人生において、いつかまたこれらの書物が必要なときに必ず遭遇することがあると思います。そのときは、いつでも大学を思い出して下さい。先生方や友、それと書物が大いなる知恵を提供してくれると思います。

現代社会はコンピューターによる情報社会といわれていますが、先人の書いた古典もなかなか見捨てたものではありません。ＩＴのＩはインテリジェンスのＩであってほしいと思います。単に情報通であるより、状況を見極める洞察力を有する人生を送って頂きたいのです。皆さん方は、ニコラウス・クザーヌスという人物を御存知ですか。ドイツ西部のモーゼル川に面したクースに1401年に生まれた哲学者であり神学者です。この人の著作に「学識ある無知について」という書物があります。時代は、ちょうどルネッサンスに向かっているところです。この哲学者の思想は後に、パスカル、ライプニッツ、ヘーゲルなどに大きな影響を与えたとされています。現代社会につながる節目の時期に活躍した哲学者で、近代的な合理的な思想を考えつくヒントを与えた人でした。この書物の第一章では、いかにして知は無知であるかを述べています。

ソクラテスの有名な言葉「汝自身の無知を知れ」を引用し、「われわれの持っている欲望、物事を知ろうとする欲望が無意味でないとすれば、われわれは自分自身の無知を知ろうと望んでいることになる。そして、このような状態に完全に到達できたならば、われわれは学識ある無知に到達したのである。なぜなら、最も探究心の旺盛な人間にとっても、自己自身に内在する無知そのものにおいて最も学識ある者になるということが、学識上最も完全であるからである。自らを無知なる者として知ることが篤ければ篤いほど、人はいよいよ学識あるものとなるであろう」と述べているのです。

クザーヌスの思考には帰納法と演繹方の萌芽が見られ、その論理法は後のヘーゲルの自然弁証法に発展する兆しが見え隠れしていると思います。ヘーゲルの有名な言葉に「ミネルバの梟は夕闇に飛び立つ」がありますが、この前提はアリストテレスの太陽を見ようと飛び立つ梟のたとえによることも分かってくるのです。大学は国の高等教育機関として位置づけられ、真理を探究する所とされてきました。温故知新による勉強と独創的な思考で、長年このような努力が大学で続けられてきたのです。大学は、早わかりの浅知恵を身につける所ではないのです。

しかしながら、近年の高等教育の大衆化によりその役割や果たすべき機能は大きく変容してきています。特に我が国の人口構造が本格的な少子高齢社会へ急速に移行し、ついに人口数の自然減少が現実のものになったのは大きな驚きを社会に与えました。そこで、全国の大学は存続の危機に直面し、様々な改革という生き残りや工夫に知恵を絞っているのです。

皆さん方が今まで属していた大学とは、どのような場所であったのでしょうか。大学の使命は社会に優位な人材を教育し、学問の心理を研究する場と長く考えられてきました。皆さん方の印象はどうでしょうか。卒業にあたって一人一人の大学に対する思いは様々だと思います。県立大学も法人化という設置形態の大きな変化が来年から始まり、今まで以上にその存在価値をあげていく努力が必要となってきています。

皆さん方が卒業しても、心地よくいつでもまた戻って来られるような、大学づくりを目指しています。卒業式は皆さん方のこれからの長い人生において、ひとつの停車場を過ぎていくようなものであってほしいと考えています。学んだことは日々変化し、新たな勉強が必要な時代にわれわれは生きていると思います。知の探求には終着駅はないのです。ぜひ、この卒業式を新たなる旅立ちの出発点として位置づけて頂きたいと考えています。

さて、大学は国家の教育体系の中でかつて最終学歴と位置づけられていましたが、20世紀は科学と技術の世紀といわれ、日進月歩の科学の進歩には新たな大学院教育が必要とされ、大学院大学が数多く設置されてきています。そこで大学のあり様も大きく変革し、どのようにすれば時代の要請に答えられるのか、全国の大学で試行錯誤が続いているのです。

昨年も天城学長会議が開催され、キッコーマン株式会社の茂木会長が「企業が求める大学生像」という講演をされました。そこで強調されたことは、企業でしっかり働ける資格や能力を身につけて卒業してほしいということでした。一昔前のように、部活だけで卒業する体力だけ自信がある人材は求められていないといわれ、基礎勉強とそれを自己増強できる人材が必要とされたのです。

大学で勉強の方向性がうまくつかめず、就職も興味が無いといういわゆるニートの学生が年々増加していることから、大学は何をしているとお叱りの声が社会的にもなされています。皆さん方は就職や進学また留学へと、しっかりと自分自身の人生を考えて計画し行動されることと思います。そして、行動しなければ知恵は身につきませんが、たとえ行動して失敗しても次の人生を乗り越える賢明さは手に入るのです。

付和雷同しない、確固たる知的自我を社会や新たな局面でぜひ確立させる努力を続けて行って頂きたいと願うのです。大学で学んだ証は付与されている権利と身勝手とは違うことや、自由と気ままは大いに異なることを分別としてもって卒業して頂きたいと切に願うところであります。

高等教育機関として大学という呼称が用いられるようになった由来を考えますと、中国の古典の大学にどうしても行き着いてしまうのです。皆さん方は、この大学という古典を読まれたことはあるでしょうか。もしなければ、卒業して収入があるようになれば買ってみてください。大学は朱子により四書とされ、その内容は我が国の中国文学の権威であられる諸橋先生の解説によると、「政治の最終目的は治国平天下にあるが、これを実現するためには、まず家を斉え身を修めなければならない。身を修めるには、心を正しく意を誠にしなければならない。この正心誠意を身につけるためには格物致知、すなわち物の道理をきわめ、学文を修得しなければならない。」と述べています。この書物には、なかなか含蓄のあることが述べられているのですが、この格物致知、つまり知を致すは物に格に在りとは、人間の良知を完全に磨き上げようと思うならば、事物に直接あたって、その中に流れている天理を調べるようにするとよい。宇宙間には常にある道理が流れている。植物や動物の中に流れているものは物の性であり、人間の中に流れているものは人の性である。だから人の性をきわめること、すなわち良知をきわめようとするならば、まず物の性をきわめること、すなわち物にいたることを必要とするとされています。

さらに、「大学の道は、明徳を明らかにするに在り、民を親たにするに在り。至善に止まるに在り。」という文章は大学の内容として最も重要であり、大学の三綱領といわれるものです。この言葉の第一項は、知事が提案しておられる富国有徳、創知協働に通じていると思います。さらに、第二項は、大学の地域貢献にも相当する事柄なのです。県立大学は、静岡県を全てキャンパスとして勉強する大学を目指しているのです。

大学で将来のあり様をいろいろ検討していますが、この中国の古典に既に明確に記述されていることに大いなる驚きと、検討している方向がそんなにおかしなことではないという安心とがこれらの書物を読んで思い浮かぶのです。余談ですが、この良知は「りょうち」と入力すれば、ちゃんと変換されるのですが、この静岡県にはこの同じ漢字の苗字の人々が居られるのです。焼津市にある名前でこちらは「らち」さんとどうやら呼ばれているのです。いつの頃からの名前かまだ勉強が足らないのですが、このようなささやかな発見をした時も、何となく嬉しくなるのです。

皆さん方が今日卒業する県立大学は、大学という高等教育機関としての本質を見失うことなく、不断の努力を継続し、卒業された皆さんが生涯誇りに思う大学として、いつでも帰って来られる知の学び舎として存続していくことをお約束して、前途ある卒業生の皆様方の未来に幸多からんことを祈念し、式辞を終わりたいと思います。

本学教員の著書紹介

『大礒正美の よむ地球きる世界 〈日本はどうなる編〉』

彩雲出版、全214頁、2006年5月17日刊行、定価1,260円

国際関係学部　教授　大礒 正美

大礒ゼミのＨＰに５年前から連載している国際政治コラムが、ネットの世界で一気にブレークしました。延べ数十万人が見たはずで、以下は転載されたサイト上に散見された書き込みの一部です。

静岡県民としてこんな立派な教授がいるのが誇らしい	神、降臨。他の教授も見習ってほしい
静岡県立大、受かってて良かった！	自分の考えをまとめるお手本
英訳して世界に広めると良い	教授の的確な分析とユーモアに惚れました
教授のコラムは面白い。まとめて本にしてほしい。	

というわけで、さっそく出版社が名乗りを上げ、書籍化第１弾が刊行されました。一般向けのネット発信で、しかも専門的内容、かつ教材としても役に立つという三鳥狙いがとりあえず奏功したことになります。これも新しい大学（改革）の成果を先取りしたものでしょう。

この本にあるのは、日本人にとっての基本的な事実であり、ないのは自虐と自尊です。声高な主義主張もありません。誰でも気軽に読めて得をした気分になれる「国家の指針」です。県大生全員が目を通すよう期待しています。

『メディアコントロール ―日本の戦争報道』

旬報社、全301頁、2005年11月25日刊行、定価2,415円

国際関係学部　教授　前坂 俊之

戦後60年の節目に合わせて、戦争を知らない学生たちにメディアの戦争報道がどうだったのか、を勉強してもらうために書きました。昭和戦前の満州事変から日中戦争、太平洋戦争、さらに戦後のベトナム戦争から湾岸戦争、現在のイラク戦争まで約70年間に起こった戦争での戦争報道を検証し、真実を伝えたのか、逆に政府のメディアコントロール（検閲）によって真実を隠蔽したのか、を克明に明らかにして、メディアによる情報操作の実態を浮き彫りにしました。

イラク戦争報道では最も注目されたカタールの衛星放送「アルジヤジーラ」については、「１つの意見、もう１つの意見（One Opinion the Other Opinion）という客観報道に徹したその姿勢を直接、編集責任者に取材してレポートしたのが本書のミソです。

『うちのコがわたしを看てくれる　動物介在看護』

ファームプレス、全124頁、2006年3月1日刊行、定価1,575円

看護学部　助手　熊坂 隆行

最近、日本でも「アニマルセラピー」という言葉をよく耳にするようになってきました。また、その理解も徐々に進み、動物が持つ「癒しの力」が認められつつあります。

もし、あなたが入院されたとき、家で一緒に暮らしていた愛犬がそばにいてくれたら、どんなに心強いことでしょう、また、どんなに心が和むことでしょう。もしかしたら、それだけで、早く元気になってしまうかもしれません。

しかし、感染症やアレルギーの問題から、まだまだ日本では、病院に動物を導入することは困難なことが多いです。そこで、どのようにしたら病院に動物を導入することができるのか、そして、動物の力を看護や介護の現場で活用できるのかを多くの看護師様や患者様の声を紹介しながら、解説させていただきました。

平成17年度　厚生労働科学研究費補助金採択実績(本学事務委任分)

【本学教員が主任研究者である研究事業】

研究者区分	部局名	職名	氏名	研究事業名・研究課題名
主任研究者	薬学部	教授	野口博司	研究事業名：ヒューマンサイエンス振興財団（創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業） 研究課題名：変異を克服した画期的抗ウイルス薬の開発
分担研究者	薬学部	教授	鈴木康夫	
分担研究者	薬学部	教授	佐藤雅之	
分担研究者	薬学部	教授	菅　敏幸	
分担研究者	薬学部	助教授	鈴木　隆	
主任研究者	国際関係学部	教授	石川　准	研究事業名：感覚器障害研究事業 研究課題名：視覚障害者、盲ろう者向け音声・点字コンピュータ・オペレーティングシステムの開発

【他機関の研究者が主任研究者である研究事業】

研究者区分	部局名	職名	氏名	研究事業名・研究課題名
分担研究者	薬学部	教授	鈴木康夫	研究事業名：新興・再興感染症研究事業 研究課題名：インフルエンザパンデミックに対する危機管理体制と国際対応に関する研究
分担研究者	薬学部	教授	山田静雄	研究事業名：食品の安全・安心確保推進研究事業 研究課題名：いわゆる健康食品の健康影響と健康被害に関する研究
分担研究者	薬学部	教授	山田静雄	研究事業名：食品の安全・安心確保推進研究事業 研究課題名：高齢化社会への対応や生活習慣病の予防を指向した食品素材の安全性・有効性データベース作成
分担研究者	薬学部	教授	野口博司	研究事業名：ヒトゲノム・再生医療等研究事業 研究課題名：遺伝子組み換え薬用植物の環境に与える影響に関する研究
分担研究者	薬学部	教授	山田　浩	研究事業名：食品の安全・安心確保推進研究事業 研究課題名：高齢化社会への対応や生活習慣病の予防を指向した食品素材の安全性・有効性データベース作成
分担研究者	薬学部	講師	加藤善久	研究事業名：化学物質リスク研究事業 研究課題名：内分泌かく乱化学物質(ダイオキシン類を含む)の胎児・新生児暴露によるリスク予測に関する研究
分担研究者	薬学部	講師	三宅正紀	研究事業名：健康科学総合研究事業 研究課題名：生活環境におけるレジオネラ感染予防に関する研究
分担研究者	薬学部	講師	浅井知浩	研究事業名：萌芽的先端医療技術推進研究事業 研究課題名：がん新生血管を標的としたAll in oneデバイスによる革新的siRNAデリバリーシステムとがん治療法の開発
分担研究者	食品栄養科学部	助教授	合田敏尚	研究事業名：食品の安全・安心確保推進研究事業 研究課題名：特定保健用食品の新たな新作基準に関する研究
分担研究者	看護学部	助教授	奥原秀盛	研究事業名：第3次対がん総合戦略研究事業 研究課題名：がん生存(Cancer survivor）のQOL向上に有効な医療資源の構築研究
分担研究者	環境科学研究所	助教授	大橋典男	研究事業名：新興・再興感染症研究事業 研究課題名：回帰熱、レプトスピラ等の希少輸入感染症の実態調査および迅速診断法の確立に関する研究

※職名は、平成17年度のものを記載してある。

平成18年度　科学研究費補助金採択状況

【年度別 採択件数】

年度	新規課題		継続課題	合計
	応募	採択		
11	150	31	32	63
12	162	27	35	62
13	162	23	30	53
14	177	35	29	64
15	169	31	43	74
16	140	22	48	70
17	156	39	33	72
18	174	35	44	79

【平成18年度 部局別 採択件数】

部局	新規課題		継続課題	合計
	応募	採択		
薬学部	80	16	16	32
食品栄養科学部	35	8	8	16
国際関係学部	9	2	9	11
経営情報学部	16	2	1	3
看護学部	16	3	6	9
環境科学研究所	18	4	4	8
合計	174	35	44	79

※薬学部には薬学研究科を含む。
食品栄養科学部には生活健康科学研究科を含む。
国際関係学部には国際関係学研究科を含む。

【平成18年度 研究種目別 採択件数】

研究種目	新規課題		継続課題	合計
	応募	採択		
基盤研究（S）	0	0	0	0
基盤研究（A）	1	0	0	0
基盤研究（B）	19	4	4	8
基盤研究（C）	68	16	24	40
萌芽研究	24	1	3	4
若手研究（A）	0	0	0	0
若手研究（B）	39	10	9	19
特定領域研究	21	2	1	3
特別推進研究	2	2	3	5
合計	174	35	44	79

平成18年度に新規採択された研究代表者及び研究課題

基盤研究（B）

石川　准	国際関係学部	教授	視覚障害者ＩＴ支援技術トレーナー養成プログラムの研究
川島博人	薬学部	助教授	リンパ球ホーミングにおける硫酸化糖鎖の多重機能の解明
奥　直人	薬学部	教授	新発想ＲＴ－ＤＤＳによるアレルギー・免疫疾患の根本的治療法の開発
鈴木　隆	薬学部	教授	インフルエンザＡ型ウイルスの増殖を制御するＮＡ遺伝子の機能解明

基盤研究（C）

貝沼やす子	食品栄養科学部	教授	緑茶の色・味・成分を生かした茶飯調製方法の検討
木苗直秀	食品栄養科学部	教授	沢わさびと緑茶のヘリコバクター・ピロリに対する抗菌複合効果と疫学的調査研究
加藤善久	薬学部	講師	ＰＣＢの甲状腺ホルモン撹乱作用発現メカニズムの解明：ヒトへの外挿性に関する研究
谷　幸則	環境科学研究所	助手	真菌が形成するﾏﾝｶﾞﾝ酸化物と金属ｲｵﾝの複合系を用いた有害ｱﾆｵﾝ種の濃縮除去
阿部郁朗	薬学部	講師	植物ポリケタイドの分子多様性を創出する新規生合成酵素の探索と機能解析
栗田和典	国際関係学部	助教授	１８世紀前半イングランドの国王恩赦嘆願状
西田公昭	看護学部	助教授	社会集団の健康度診断とその事態研究
山浦一保	経営情報学部	講師	大学研究者のｷｬﾘｱ発達における危機と飛躍に及ぼすｻﾎﾟｰﾄ資源の効果に関する研究
小出義夫	経営情報学部	教授	荷電レプトンの質量公式を手がかりとする物質基本粒子の質量の起源の探究
左　一八	薬学部	助手	ウイルス受容体糖鎖機能発現の分子機構の解明と機能制御プローブの創出
熊澤茂則	食品栄養科学部	助教授	機能性食品素材としての蜂産品に関する基礎的研究
中山貢一	薬学部	名誉教授	バイオメカニカルストレスによる骨格筋細胞の糖代謝機能制御とその分子機構の解明
宮本大誠	薬学部	講師	インフルエンザＡ型ウイルスの宿主細胞膜由来糖タンパク質受容体の同定と機能解析
桑原厚和	環境科学研究所	教授	短鎖脂肪酸受容体ＧＰＲ４３による大腸粘膜上皮イオン輸送制御機構に関する研究
合田敏尚	食品栄養科学部	助教授	機能性食品成分に対する消化管応答の分子基盤に関する研究
山田静雄	薬学部	教授	薬物ー受容体結合のインビボ解析による排尿障害の病態解析と創薬

萌芽研究

今井康之	薬学部	教授	接触感作促進作用を有する化学物質の侵害刺激受容チャネルに対する効果

若手研究（B）

大浦　健	環境科学研究所	助手	大気・水圏におけるハロゲン化芳香族類の変質機構の解明と生体毒性の変化
豊岡達士	環境科学研究所	助手	生体内修復分子に着目した高感度環境影響評価法の構築
澤田潤一	薬学研究科	助教授	ケミカルジェネティクスによる新規有糸分裂阻害化合物の探索と作用機序の解析
上平美弥	食品栄養科学部	助手	植物ポリフェノールによるアミロイド形成阻害機構の解明
望月和樹	食品栄養科学部	助手	小腸におけるエピジェネティック調節と栄養素・ホルモンの役割
隠岐和美	薬学部	助手	メディカルハーブ、ノコギリヤシ果実抽出液の排尿障害改善作用に関する研究
熊坂隆行	看護学部	助手	動物介在における緩和ケア病棟入院患者の変化と動物を用いた看護援助法の構築
伊藤友子	生活健康科学研究科	研究支援者	糖尿病由来の感染症や合併症を予防する食品因子の探索と作用機序の解析
大門貴志	薬学部	講師	薬物動態学における統計的推論の研究開発
井下裕子	看護学部	助手	人工股関節全置換術患者の日常生活状況把握に関する研究

特定領域研究

田辺由幸	薬学部	助手	メカニカルストレスによる脂肪細胞の代謝内分泌機能制御の分子機構
川島博人	薬学部	助教授	高内皮細静脈の分化形質を規定する細胞外環境に関する研究

特別研究員奨励賞

中川妙子	生活健康科学研究所	ＤＣ２	レギュカルチン遺伝子導入腎近位尿管細胞培養系における機能発現と細胞分子機構
丸山修治	薬学研究科	ＤＣ２	ＰＥＴを用いた排尿障害治療薬とﾒﾃﾞｨｶﾙﾊｰﾌﾞの有効性及び安全性の非侵襲的評価

継続課題の研究代表者

基盤研究（B）	武田厚司（薬学部　助教授）、野口博司（薬学部　教授）、横越英彦（食品栄養科学部　教授）、六鹿茂夫（国際関係学研究科　教授）
基盤研究（C）	剣持久木（国際関係学部　助教授）、伊吹裕子（環境科学研究所　助教授）、六鹿茂夫（国際関係学研究科　教授）、 小寺栄子(看護学部　教授)、森山　優（国際関係学部　講師）、小林公子（食品栄養科学部　助教授）、 橋本伸哉（環境科学研究所　教授）、岩堀恵祐（環境科学研究所　教授）、大楠栄三（国際関係学部　助教授）、 吉村紀子（国際関係学部　教授）、渡部和雄（経営情報学部　教授）、中山　勉（食品栄養科学部　教授）、 久留戸涼子（食品栄養科学部　助手）、菅　敏幸（薬学部　教授）、赤井周司（薬学部　教授）、豊岡利正（薬学部　教授）、 田辺由幸（薬学部　助手）、山口正義（生活健康科学研究科　教授）、出川雅邦（薬学部　教授）、福島　健（薬学部　助教授）、 原田　均（薬学部　講師）、石川智久（薬学部　教授）、伊藤邦彦（薬学部　教授）、白尾久美子（看護学部　助教授）
萌芽研究	湖中真哉（国際関係学部　助手）、津富　宏（国際関係学部　助教授）、樋口まち子（看護学部　教授）
若手研究（B）	竹村ひとみ（看護学部　助手）、宮田直幸（環境科学研究所　助手）、古田　巧（薬学部　助手）、 松森奈津子（国際関係学部　講師）、加藤　大（薬学部　講師）、浅井知浩（薬学部　講師）、 五十里彰（薬学部　講師）、上村和秀（薬学部　助教授）、河内俊二（看護学部　助手）
特定領域研究	上村和秀（薬学部　助教授）
特別研究員奨励賞	内山聡志（生活健康科学研究科　DC2）、岩崎有作（生活健康科学研究科　DC1）、石井剛志（生活健康科学研究科　PD）

※課題番号順に掲載

研究助成採択

平成１８年度（財）喫煙科学研究財団研究助成（特定研究）

研　究　者：薬学部　薬物動態学分野　教授　山田　静雄
研 究 課 題：排尿機能におけるニコチン性受容体の役割と創薬

平成１８年度ソルト・サイエンス研究財団研究助成

研　究　者：薬学部　生体情報分子解析学分野　講師　五十里　彰
研 究 課 題：腎尿細管における新規マグネシウム輸送体パラセリン－１の発現調節機構に関する研究

平成１８年度日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「学術図書」

著　　者：国際関係学部　助手　湖中真哉
刊行物の名称：牧畜二重経済の人類学

外部資金受入状況

〈年度別受入状況〉　（単位：件、千円）

年度	奨学寄附金		受託研究		共同研究		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 12 年度	16	118,100					16	118,100
平成 13 年度	74	122,410	21	79,107	4	5,719	99	207,236
平成 14 年度	82	88,389	25	64,532	10	86,700	117	239,621
平成 15 年度	143	96,364	21	52,055	7	65,200	171	213,619
平成 16 年度	130	103,465	27	96,296	12	61,200	169	260,961
平成 17 年度	114	118,851	37	249,061	17	29,550	168	397,462
計	559	647,579	131	541,051	50	248,369	740	1,436,999

〈平成17年度受入状況〉　（単位：件、千円）

区分	奨学寄附金		受託研究		共同研究		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
全　　学	8	20,000	2	15,950			10	35,950
薬　学　部	57	52,290	12	50,920	9	11,800	78	115,010
食品栄養科学部	30	28,450	9	135,815	4	10,900	43	175,165
国際関係学部	1	800	1	17,471	1	500	3	18,771
経営情報学部	5	8,981	4	860	1	5,000	10	14,841
看　護　学　部	2	1,230	3	2,900	1	300	6	4,430
環境科学研究所	11	7,100	6	25,145	1	1,050	18	33,295
計	114	118,851	37	249,061	17	29,550	168	397,462

＊ 研究科については、各学部に併せて計上

教員の人事

就　任

（４月１日付け）
川瀬　光義　経営情報学部長
小林　裕和　生活健康科学研究科長
西山　克典　国際関係学研究科長
渡部　和雄　経営情報学研究科長（再任）
岩堀　惠祐　環境科学研究所長
小林みどり　評議員（経営情報学部）

採　用

（４月１日付け）
横山　英志　薬学部助手
高橋　忠伸　薬学部助手
大島　寛史　食品栄養科学部教授
河原崎泰昌　食品栄養科学部助教授
小山　秀夫　経営情報学部教授
西田　在賢　経営情報学部教授
白尾久美子　看護学部助教授
鈴木　里利　看護学部講師
上田　真仁　看護学部助手
野中　珠美　看護学部助手
海野　雄加　薬学研究科助手
佐野慶一郎　環境科学研究所助教授

（５月１日付け）
加藤　安宏　薬学部講師
井上　広子　食品栄養科学部助手

（６月１日付け）
大川　栄重　食品栄養科学部助手
小林　晶子　生活健康科学研究科助手

昇　任

（４月１日付け）
鈴木　　隆　薬学部教授
石川　智久　薬学部教授
植松　正吾　薬学部講師
渡辺　達夫　食品栄養科学部教授
熊谷　裕通　食品栄養科学部教授
大橋　典男　環境科学研究所教授
橋本　伸哉　環境科学研究所教授

退　職

（３月３１日付け）
鈴木　康夫　薬学部教授
中山　貢一　薬学部教授
風間　舜介　薬学部講師
吉成　浩一　薬学部講師
竹石　桂一　食品栄養科学部教授
伊勢村　護　食品栄養科学部教授
新保　真理　食品栄養科学部助手
有泉　学宙　国際関係学部教授
鷲山　茂雄　国際関係学部教授
西村　ユミ　看護学部助教授
立岡　弓子　看護学部助手
齊藤　麻子　看護学部助手
桑原　和代　看護学部助手
斉本美津子　看護学部助手
澤田　夏美　生活健康科学研究科助手
横田　　勇　環境科学研究所教授
池田　雅彦　環境科学研究所助手

転　任

（３月３１日付け）
白石　葉子　看護学部助手

平成１８年度　静岡県立大学年間行事予定（8月～3月・抜粋）

開催時期等	概　　要	担　　当
8月6日（日）	「漢方の基礎学習と薬草園見学の会」 会場：大講堂、薬草園 内容：漢方薬に関する基礎学習及び薬草園の見学	薬学部 漢方薬研究施設
8月7日（月） ～8日（火）	「サマースクール2006」 内容：大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻への入学希望者を対象に6つの研究室で実験、講義を行う。	大学院生活健康科学研究科 環境物質科学専攻
8月7日（月） ～9日（水）	「オープンキャンパス」開催 内容：高校生、入学希望者、保護者、教員を対象に学部の概要説明、施設見学、模擬講義等を行う。	学生課入試係
8月9日（水） ～10日（木）	「夏休みファーマカレッジ2006」 会場：薬学部棟 内容：県下の高校生を対象に本学薬学部研究室で実験演習の体験入学を実施する。	薬学部
8月19日（土）	「環境科学研究所公開」（県民の日行事） 会場：環境科学研究所 内容：一般県民対象の研究所公開	環境科学研究所
8月21日（月）	「キャンパス・ツアー」（県民の日行事） 内容：一般県民を対象に大学の説明、施設見学を行う。	経営課企画スタッフ
8月26日（土）	「親子環境教室」 内容：小学生とその親を対象に、お弁当持参で一日実験をしながら環境について考える。	地域環境啓発センター
9月～11月	「第20回静岡県立大学公開講座」 会場：県立大学（谷田キャンパス） 浜松市地域情報センター 沼津労政会館 県立大学短期大学部（小鹿キャンパス） 内容：一般県民を対象に、公開講座を開講する。	学務スタッフ 公開講座委員会
10月1日（日）	「漢方の基礎学習と薬草園見学の会」 会場：大講堂、薬草園 内容：漢方薬に関する基礎学習及び薬草園の見学	薬学部 漢方薬研究施設
10月7日（土）	「経営情報学部オープンセミナー2006～先生達をもっと知ろう！～」 内容：高校生が県立大学でセミナーを体験する。	経営情報学部
10月22日(日)	「環境研究交流しずおか集会」 内容：公的機関、企業、市民等が集まり、環境問題に関する最新の研究の情報交換、環境改善・保全に関する技術の進展、意識の向上を目指す。	地域環境啓発センター
10月28日（土） ～29日（日）	「剣祭」 内容：学園祭（コンサート、模擬店、後夜祭等）	剣祭実行委員会
未定 （10月頃を検討）	「静岡県立大学の“産・学・民・官”連携を考える集い」 内容：研究室開放・研究発表	経営課産学連携スタッフ 産学連携推進委員会
11月7日(火)	「創立20周年記念式典」 会場：ホテルセンチュリー静岡 内容：式典及び特別講演	創立20周年記念実行委員会
12月（全3回）	「環境科学講座」 会場：B-nest 静岡市産学交流センター（予定） 内容：一般県民対象に環境に関する話題を提供する。	地域環境啓発センター
未定 （3月頃を検討）	「USフォーラム」 内容：当年度の研究成果の発表会	経営課産学連携スタッフ

※上記行事全般に係る問合せは、事務局経営課企画スタッフ（ＴＥＬ：０５４－２６４－５１０３）まで

図書館だより

シリーズ　『私の1冊の本』

図書館では、利用者への読書推進の一環として、先生方が読んで感動し、心に残った本を紹介しています。

藤井　敏　　薬学部教授

紹介図書名：二重らせん 第三の男

著　者　名：モーリス・ウィルキンス

（長野敬/丸山敬 訳）

出 版 社 名：岩波書店

ＩＳＢＮ：4000063006

図書館所蔵：1階閲覧室　289.3/W 73

「二重らせんの発見」にまつわる論議の最後の証言誌である。DNA二重らせんではワトソン（J.D.Watson）とクリック（F.H.C.Crick）が有名で、ノーベル賞受賞者でもある著者ウィルキンス（M.H.F.Wilkins）の影が薄い。それどころか女性科学者フランクリン（Rosalind Franklin）との確執で暗い面が強調されてきた感がある。ワトソンは著述でも大きなうねりを起こしたことでも知られている。ノーベル賞への彼の成功への道のりを、息もつかせぬ緊張感と、赤裸々な苦闘・疑問そして勝利感を表現した「二重らせん」は歴史に残る科学史書であろう。この本はそれ以上に、彼のおそらく異常なまでの率直さからくる同僚科学者への容赦ない著述、とりわけフランクリンへのそれは彼女の貢献を過少評価する意図もあって揶揄した表現となっており、ある意味では人間臭さのあふれる科学裏面史でもある。フランクリンの撮影したB型DNAのX線写真を彼女の了解なしでワトソン・クリックに見せたことで、ウィルキンスは女性差別者のレッテルが貼られることになった。ワトソンの「二重らせん」に誘発される形でクリックらもいくつかの科学著書を残しており、フランクリンについても「ダークレディと呼ばれて（二重らせん発見とロザリンド・フランクリンの真実）」が最近刊行された。残されたウィルキンスが死の前年（2003年）に50年の沈黙を破って、彼の科学者としての信念生き様を語った遺作である。

ウィルキンスとフランクリンはほぼ同年代で，共に科学者の一家には生まれてはおらず、それなりに理解ある家族の援助のもと、科学者への道を非エリート的に歩めた。戦争への科学的寄与を模索し、大学での科学的社会主義活動にも濃淡があるが積極的に対応してきたのも共有する。戦後、フランクリンはフランス学風に感化され、またX線回折での石炭の構造で著名者となっていった。ウィルキンスは、大ボスであるランダル教授のキングスカレッジでの生物物理部門創設の右腕として、生物試料DNAのX線回折法で明らかにするチーム主

任に抜擢された。まもなくフランクリンが回折装置の改良を担うべくこのチームに参画した。ウィルキンスはDNAの構造解析に終始真摯に興味を維持しており、解明のための理論的布石にも着手していた。フランクリンは頑なまでの秘密主義のなかX線回折データを溜め込む。ウィルキンスの女性への度重なるアプローチ（旅行）癖とフランクリンの引きこもりで、二人の接点はほとんどなくなった。ワトソン・クリックの大失敗によってもたされた「DNAモラトリアム」期間も、ランダル教授の場当たり的な二人の分離と賢人バナール教授のフランクリン引き抜き工作で有効には生かされなかった。更に、フランクリンがワトソン・クリックの初期モデルの間違いに意気揚々となり、「B型DNAはらせんでない」とまで言い切る偏狭な姿勢の是正が遅かった。

ワトソン流（アメリカ流）のノーベル賞狩りに、この二人の実験科学者が翻弄されつづける場面、ロンドン一派とケンブリッジ学派との覇権争い、名誉著者の申し出などには現在の科学者の置かれている状況の一面も垣間見え面白い。偉人たちの伝記としてではなく、戦後まもなく英国で繰り広げられ開花した生物と物理の融合劇に情熱を傾けた等身大像の人間臭いnarrative（物語）である。

本学教員からの著書寄贈

先生方から著書を寄贈していただきました。（平成18年２月以降）
図書館自由閲覧室の教員著作コーナーに配架して利用に供しています。

◎小浜 裕久 教授 （国際関係学部）

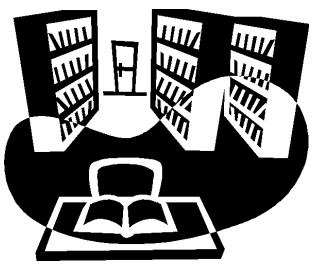
「External factors for Asian development（Asian development experience ; v. 1)」
Singapore : Institute of Southeast Asian Studies, 2003年

◎澤田 敬人 助教授 （国際関係学部）

「グローバリゼーション：オーストラリア教育市場化の研究」
オセアニア出版　2005年

「役立つ教育研究：イギリスとニュージーランドの教育開発システム（ＯＥＣＤ教育レポートシリーズ)」
オセアニア出版　2004年

「大学・学生・社会の新しい関係：オーストラリア・ブリスベンとフランス･パリで開催した高等教育マネージメントに関するセミナー報告（ＯＥＣＤ教育レポートシリーズ)」
オセアニア出版　2003年



公開シンポジウム「岡村昭彦の全体像に迫る」を開催

「岡村昭彦文書研究会」世話人　国際関係学研究科助手　比留間　洋一

平成18年３月13日（月）に、小講堂で公開シンポジウムを開催しました。「岡村昭彦の全体像に迫る－岡村文書（静岡県立大学図書館所蔵）の可能性」というテーマのもとパネリスト５名（長倉洋海・写真家、廣田尚久・弁護士、細野容子・岐阜大学医学部看護学科教授、吉田敏浩・ジャーナリスト、米沢慧・評論家）をお招きしました。

岡村昭彦氏（1929～1985）は、ベトナム戦争を皮切りに世界を舞台として活躍したフォトグラファー・ジャーナリストです。晩年は静岡の舞阪を拠点としていました。

本シンポジウムは、「岡村昭彦文書研究会」によって企画されたものです。同会は、これまで必ずしも十分ではなかった同文書の整理、活用、発信を進めていくことを目的として、国際関係学部の教員を中心として、2005年11月に発足されたものです。

シンポジウムの第１部では、岡村氏をインタビューしたビデオが上映されました。第２部では、まず、パネリスト一人ずつからの基調講演が行われました。次に、フロアーから質問を出してもらい、パネリストの方々に答えていただきました。１つ目は、学生からの質問で、戦争にどう向き合うかという岡村氏の戦争観について、２つ目は、膨大な蔵書･資料を岡村氏がどう利用していたかという氏の勉強法について、３つ目は、岡村文書の可能性について、というものでした。司会は、小幡壮教授（国際関係学部）が務めました。

予定より大幅に時間をオーバーしてしまいましたが、たいへん熱のこもった有意義な時間だった、という感想が寄せられました。パネリストの方々が抱いている、岡村氏に対する深い思い入れと、本学の取り組みに対する大きな期待とが、参加者（約70名）の多くの心に届いたのではないかと思います。今後の活動にとって大きな励ましとなりました。

実施に際しては、本学の教職員、学生はもとより、「AKIHIKOの会」、「岡村昭彦文書研究会」に関係する一般の方々からも多くの協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。

はばたき寄金からのお知らせ

はばたき寄金運営委員会

1　平成17年度はばたき寄金事業実績

（1）奨学金の授与

モスクワ国立国際関係大学短期交換留学生（派遣学生 2 人、受入学生 2 人）に奨学金を授与しました。

（2）第９回学生文芸コンクールの実施、第８回学生スピーチコンテストの開催及び「優秀作品集」の発行

第 9 回学生文芸コンクールを実施しました（ 6 月～10月）。
また、剣祭初日の10月29日に学生文芸コンクールの表彰式とともに第 8 回学生スピーチコンテストを開催しました。同学生文芸コンクールの優秀作品及びスピーチコンテストの優秀者のスピーチをまとめた「優秀作品集」を発行しました。

優秀作品集

（3）はばたき賞の授与

各学科の成績優秀卒業生 8 人に「はばたき賞」を授与しました。

平成17年度はばたき賞表彰者一覧

学　部	学　科	氏　名
薬 学 部	薬学科	山田真記子
	製薬学科	鈴木　裕子
食品栄養科学部	食品学科	畠山　真帆
	栄養学科	柴田　知美
国際関係学部	国際関係学科	佐藤　友美
	国際言語文化学科	江間　成昭
経営情報学部	経営情報学科	永田　和史
看護学部	看護学科	穐田　真弓

「はばたき賞」表彰者

（4）おおとり会賞の決定

剣祭等の学内活動だけでなく、地域イベントへの参加や福祉施設での交流など活発に活動を行っている「ジャズダンス部」と就職活動支援に加え学生の人間的成長や自己実現を図るための活動を積極的に行っている「学生ネットワークDREAM　SEEDS」の 2 団体に「おおとり会賞」を授与することに決定しました。
（授与式は、平成18年 4 月20日の開学記念行事第 3 部において実施しました。）

おおとり会賞：ジャズダンス部（剣祭のステージより）

2　平成17年度はばたき寄金収支結果

○収入計	4,555,605円	
内訳	4,093,572円	前年度繰越金
	462,000円	寄附金（教職員、後援会28件）
	33円	雑収入（預貯金利息）

○支出計	1,317,380円	
内訳	902,000円	報奨等
	150,000円	事業費助成（開学記念行事等）
	220,500円	印刷製本費（優秀作品集）
	44,880円	雑費（賞状筆耕代等）
○差引残高	3,238,225円	平成18年度に繰り越し

モスクワ国立国際関係大学留学体験記

国際関係学研究科　修士課程２年　横山　みのり

（大学とその生活）

2005年 9 月末から 1 月にかけての 4 ヶ月間にわたって、交換留学生としてモスクワ国立国際関係大学（略称MGIMO（ムギモ））で勉強させていただきました。

ロシアのシンボル聖ワシリー教会

国際関係学部、国際経済関係学部、国際法学部、国際ジャーナリスト学部、政治学部などからなる同校は、伝統的に政府機関・研究所や国際機関などに多数人材を送り出し、ロシアを代表するモスクワ大学と勝るとも劣らない超エリート大学としてその名が知られています。MGIMOはモスクワ外務省所轄の大学で、「ロシアの頭脳」を育てる充実した環境にあり、私もイーゴリ・イワノフ外相の大学院講義を聴講する機会に恵まれました。

周知の通り、モスクワはロシア国内の他の地域と比べても経済発展が著しく、主要なるものすべてが集中している首都で、“ ロシア国内にある別の国 ” などとも言われます。その中でもMGIMOはさらに特別で、学内には室内プール・テニスコート・美容院・スシバーやファーストフードまで揃った不自由ない「華やかな」空気が流れる空間のようで圧倒されます。当初、私がかつて長期滞在をした旧ソ連圏のキルギス共和国ビシケクと比較してしまい、その格差に困惑してしまいました。

世界各地から集まった交換留学生は皆、大学の寮で寝食をともにし、ロシア語の研修生という立場でレベル毎に、会話や文法、時事や文化理解のために有効なテキストや、効果的なVTRを取り入れた授業を週 3 , 4 日受講します。私は、大学からバスを乗り継いで 1 時間弱ほど離れた寮で、本学国際関係学部現 4 年の大広恭子さんとヨルダン人、その後はイタリア人、フランス人と生活しました。信仰や思考、言語や性格、生活スタイルそのものが違う仲間との生活は新鮮に感じられました。お国自慢料理を囲んで国際問題についての議論や恋愛談義など、他で味わうことのできない貴重な体験ができました。

（日本クラブ本格始動への参加）

滞在 3 ヶ月目に、実質的な活動がされていなかった日本クラブを再生させようとの話が日本語を学ぶ学生たちの間に持ちあがっていると聞き、その計画から参加しました。

第 1 回目は、日本の家庭料理や代表的な食事を味わってもらおうと記念の会食を催しました。日本人留学生が作ったモスクワ風のちらし寿司、豚の角煮、おしるこ、焼き鳥などを囲んで交流を深めました。最初はなかなか打ち解けられなかったモスクワの学生たちも、日本の若者の暮らしぶりや日本のアニメについてなどの話で緊張がほぐれ、ウオッカと焼酎の力も手伝ってかモスクワの学生が、日本語の詩を披露する一幕もありました。

当日、『和服の着付けのしかた』をモスクワ在住の日本人の駐在員と “ 日本の美意識 ” や “ 美の秘密 ” を知ってもらう目的で披露しました。モデルになってくれたブロンドのロシア人女学生は洋服との違いに驚き、男子学生たちもその大和撫子風美貌に感激の様子でした。

日本クラブの面々（左端が著者）

今後は、月１回、村上春樹の小説の露語翻訳者や日系企業に勤めるロシア人などのゲストを迎えての勉強会の予定だそうです。とかく西欧に顔を向けているといわれるモスクワで、ひとりでも多くの“日本贔屓”が増えるよう、MGIMO日本クラブの今後の活動に期待したいところです。

（極寒のロシア）

「化粧をして外出しないように」ラジオから凍傷にならないようにとの注意が、テレビでは夜間パトロールで警官たちが路上生活者たちをケアする姿が写し出されていました。街頭では野犬や鳩が地下鉄に逃げ入って暖をとっているのを見ました。

私も１月17日の日記に泣き言を綴っています。「零下21度ってやっぱり布団のなかにいても寒い。シベリア地域は零下54度というから我慢しないと…。でも、本当に寒い…。」

この頃から、日本同様、モスクワにも大寒波が襲いました。北国でも零下35度にもなるのは30年ぶりだとのことで、私は気持ちも凍りつきました。零下30度も下ると、さすがに息をするのも苦しい感じで、皮手袋の２重はめをしてもまだなお手がしびれるほどでした。帽子、手袋、マフラーは必需品でブーツは中が毛で覆われたロングのもの、コートは膝下まである毛皮をまとい、完全防備をして外出しました。

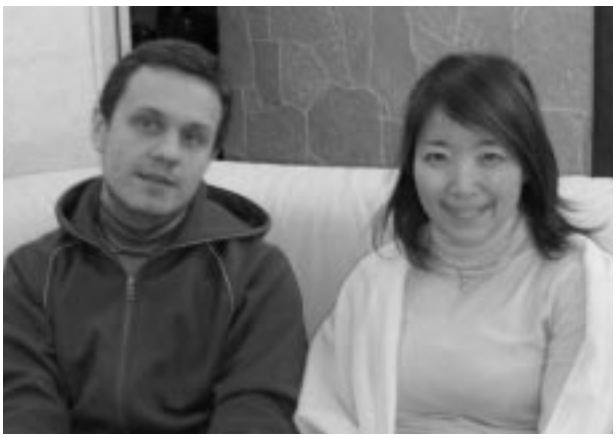
普通、ロシアでは建物の中は暖房がはりめぐらされているため、冬でも薄着で過ごせる程なのですが、寮の部屋の窓が壊れていたのにセキュリティに修理依頼の連絡をしないまま冬を迎えてしまったため、そのまま凍りつき、きっちりとは閉まらなくなっていました。部屋の中に冷風が吹き入ったせいか、なかなか寝付けず、夜は調理用のガスの炎で暖かいキッチンにこもりました。スープを煮込んだり、オーブンでクッキーを焼きながら勉強、昼に就寝という冬休みになりました。私は手持ちのセーターをすべて着込んで、ルームメートのフランス人アンさんは帽子をかぶり、手袋とマフラーをして休みました。

凍った窓に詰め物をするルームメイト

極寒のロシアはこたえましたが、いつかルームメートと再会してこの思い出話をしたいと思います。

（留学の最大の収穫）

今回、私は、留学の目的を十八世紀初頭のロシア‐トルコ関係を題材とした修士論文の資料収集と文献の読解と決め、そこにすべての神経を注ぎました。当初は右も左もわからないような手探り状態でしたが、MGIMOの日本語学科、トルコ語学科の先生方、その他ロシア人の方々のご好意による特別に専門性の高いご指導をしていただいたおかげで、研究の土台を作ることが出来ました。



翻訳の御指導をいただいたチローノフ助教授と

（御礼・感謝）

最後になりましたが、この場をお借りして、このようなかけがえのない留学の機会を与えていただいたことにつき、はばたき寄金および静岡県立大学関係者の皆様、モスクワ国立国際関係大学の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

フィリピン大学留学体験記

国際関係学部　国際関係学科４年　松嶋　千明

私は、2005年 9 月から2006年 2 月までの半年間、静岡県立大学からフィリピン大学へ交換留学生として留学しました。アジアの国への留学は、私の大学入学以前からの目標でした。そのため、１年次からフィリピン語を履修し留学へ向け準備していました。今まで学んだ英語とフィリピン語の能力を試し伸ばしたい、また現地でしか学べない文化を体験したいという思いと、留学をきっかけに世界中に友人を作り、自分の視野を広げたいという気持ちでフィリピンへ向かいました。現地では、学業に精一杯取り組むことはもちろん、こうした目標も達成できるよう様々なところへ出向き、たくさんの人々に出会うことも大切にしてきました。この体験記では、そうした貴重な体験を報告したいと思います。

【足で学んだフィリピン】

フィリピンは7,000を超える島々からなる国です。当然、そこに住む人々は言語や文化の面でも非常に多様です。私の通学したフィリピン大学はとても大きな国立大学であることから、全国から生徒が集まっています。そのように日本とは異なる環境で長期間暮らす機会に恵まれたのだから、ぜひ自分の生活する国をよく知りたいと思いました。そこで、大学での授業で人類学の“People of the Philippines”という授業を履修しました。授業では一人一人がフィリピンの民族を一つ担当し、毎回プレゼンテーションをするものです。そうして様々な民族を知りながら、実際に現地に足を運び直接人々や文化に触れる機会を持てたことが今回の留学の中でも最も価値のある体験の一つになりました。寮に住む友人と休暇を利用して、旅行の計画を練り、習いたてのフィリピン語を駆使し各地を旅行しました。初めて訪れたルソン島北部のバナウェやサガダという地域は、世界の 8 番目の不思議と呼ばれる棚田の美しさや日本の冬と変わらない気候に驚きました。山をジープニーで何時間もかけて移動したり、重い荷物を持ってどろどろになりながら山道を歩いたり、滝つぼで泳いだり。日本ではできない経験で胸が躍ることが多くありました。フィリピン人の友人をリーダーに、オランダ人、日本人のメンバーで時には意見をぶつけ合いながら、友情を深めることができました。

サガダの棚田にて

この旅行をきっかけにオランダ人の友人と親しくなり、２人で私が授業で担当したパラワン島に旅行もしました。パラワンは最後の楽園と呼ばれる美しい島です。そのため、世界中から観光客が集まり小さな島がとてもにぎやかになっています。参加したツアーでスウェーデン人やスイス人の友人と出会うこともできました。どこに出かけてもいつも感じたことは、フィリピン人の明るい性格、彼らがとても開けた心の持ち主だということです。外国人の私たちに笑顔で挨拶をしてくれ、困ったときにはすぐに手を差し伸べてくれる人々です。同時に、美しいフィリピンの自然が観光客や地元の人々によって侵されていると感じることも多くありました。私も、フィリピンを旅した一人としてこうした事実を心に留め行動しなければいけないと考えました。旅行することで、教室での勉強だけでなく生のフィリピン社会やその文化に触れられ貴重な体験ができました。

パラワン旅行で出会ったドイツ人、スウェーデン人の友人

【宝物になった出会い】

私は、大学の授業の他にフィリピン語を伸ばすために語学学校に通っていました。そこは、私の生活していた大学の寮から30分ほどのこぢんまりした学校です。規模は大きくありませんが、各国の留学生や宣教師の方々が一緒に勉強しています。皆が非常に仲良く、クリスマスには盛大なパーティーが開かれます。そこに入学した当時から、２人の先生が私の担当をしてくださり、学校のことや生活のことを事細かに心配してくださいました。年配の先生、アテ・ハイナは家族と離れて生活する私にとって母の代わりになるような存在でした。最後の授業の際には、私を自分の子だと思うと話してくださり涙が止まらなくなってしまいました。ここでは、たくさんの文化や日常生活に関する話を織り交ぜて授業をしてくださったので、フィリピン語だけでなく様々なことを学べ、とても充実していました。現在でもメールや手紙をくださる先生もいます。学校だけでなく、幅広く友好関係を築くことができ嬉しく思います。

友人の甥の洗礼式にて

たくさんの思い出の中でも、私の留学生活で最も思い出深い経験は大学の寮International Center（IC）での生活です。世界各国からの留学生が共に生活しています。渡比直後、何もわからない私を助けてくれた韓国人のルームメイト、朝まで世界や宗教のことについて語り合ったトルコ人の友人、フィリピン文化の一つであるキリスト教について考える機会をくれたアメリカ人の友人、一緒に踊って歌って笑わせてくれた韓国人のみんな、旅行を一緒にしたオランダ人の友人・・・。魅力的で知識欲に溢れた友人ばかりでした。帰国間近に行われたInternational Weekでは、各国の料理を屋台で売ったり、各国の文化を紹介したりしました。みんなで力を合わせて１週間準備し大成功を収め、みんなと出会えて本当によかったと思えました。留学の目的の一つだった、世界中の友人と出会い視野を広げるということを実現できたと考えています。

International Weekの屋台、寮の前で大学イモを売りました。

半年という短い期間でしたが、素敵な出会いに溢れ、フィリピンという社会を自分の足と目で見つめられた何にも代えがたい体験でした。社会や文化の違いで戸惑うことや、大変な思いもしましたが、それを乗り越え理解できるようになったことに意味があるのだと考えています。また、長年の夢であった留学を実現できたことから、夢は努力次第で叶うのだと実感しました。たくさんの素晴らしい出会いと、貴重な経験を通して得たものをこれから先の人生に大いに活かしていきたいと思います。

フィリピン大学のクラスメイト。一緒に日本の神話についてプレゼンテーションをしました。

クラブ・サークル紹介

ＩＦＣ（International Friendship Club）

国際関係学部　国際関係学科３年　松居　みさこ

こんにちは!!私たちはIFC、International Friendship Club（旧国際学友会）です。その名の通り、国際的な仲間と楽しく交流するクラブです！県大では現在多くの留学生が学んでいますが、普段の授業だけでお互いをよく知るのって、難しいですよね。IFCでは「グローバルに友達の輪を広げたい！」「もっとお互いの文化や価値観を理解しあいたい！」という人たちに“きっかけ”と“交流”の場を提供しています。お金をかけず、和気あいあいと楽しもう、というのが私たちのモットーです。現在では大学内のみならず、地域の日本語学校や近隣の大学にまで交流の輪が広がっています。

●下食にてIFC新入生歓迎パーティー開催！●

去る４月28日、IFC新入生歓迎パーティーが行われました。約70人が参加し、とてもにぎやかな会になりました。新入生をもてなす料理はすべて留学生が先生になって作ったもので、スリランカのチキンカレー・さばコロッケ・フルーツサラダ、ベトナムの生春巻き・チェー、中国の麻婆豆腐・トマト卵スープ、ブラジルのストロガヌフ、フィリピンのレチェフランなどまさに多国籍。食事の後はゲームをして盛り上がりました！

（本頁に掲載の写真は、いずれも新入生歓迎パーティーの時のものです。）

初めての生春巻きづくりに挑戦

●今後の活動～あなたの参加を待ってます!!～●

IFCでは日本語学校の人たちとボーリング大会をしたり、BBQや日本文化を体験するバス旅行などを行なってきました。今まで参加できなかった方も大丈夫、IFCでは次回の企画が目白押しです!!ディベート、バドミントン大会、合宿、港祭りへの参加、学祭での多国籍料理店の出店などなど。すべての企画はやりたい人が発案し、みんなで協力して盛り上げていきます。定期活動としては、お昼にみんなで部室に集まってわいわいご飯を食べながら次回の企画を練っています。興味を持った方、まずは一度IFCの部室（クラブ棟２F）をのぞいてみてください！

御質問・お問合せはifc_39@yahoo.co.jpまでどうぞ！（代表　上野・チンタカ）

「赤あげて、白あげないで、赤あげない？？？」

入りきらないほど多くの人が参加してくれました

平成18年度 開学記念行事開催される

春の恒例行事となった開学記念行事が 4 月20日(木)に行われました。今年で15回目の開催となります。

第 1 部は、昨年に続いて 3 回目となる運動会が開催されました。雨天のため体育館での開催となりましたが、約100人の参加があり、ドッジボール、玉入れ、なわとりなど大変盛り上がりました。また、本年が開学20周年にあたることから記念クイズ大会が開催され、参加者の皆さんは大いに楽しんでいました。

第 2 部は、「県立大学の過去・現在・未来ー県立大学の果たしてきた役割と今後の課題」をテーマに石川嘉延県知事の特別講演・演題「県立大学の未来に向けて」が行われ、「世界に飛躍する人材に」と学生を激励されました。県大生OBをパネリストに迎えたパネルディスカッションでは、今後、大学や学生に期待することなどの提言がされました。会場からも活発な質問、意見がありました。

第 3 部の「はばたきのつどい（交流会）」では、サークル・部活動で大いに活躍した団体に与えられる「おおとり会賞」の表彰式があり、学長から表彰されました。参加者数は500人を超え、また、運動会の優勝チームの表彰のほかアトラクションのジャズダンス部、お笑い研究会のステージもあり、交流会は大盛況でした。

谷田風土記―90

県大のレンガは360万個？

県立大学は、昭和62年（1987年）に開学した。著名な『静岡薬科大学』や『静岡県立女子大学』『静岡県立短期大学』を統合したものであるが、この谷田にまとめるという構想は半世紀前からあったようだ。

ここに紹介したのは、昭和37年発行の『わが郷土・清水』（鈴木繁三著）の記述である。

わが郷土の将来はこの様になる。

1. 静岡・清水が合併し、100万都市ができる。
2. 交通対策として、清水港から巴川を利用した運河が静岡市中心部まで開削される。
3. 草薙地区に総合大学が建設される。また有度地区に両市共立の高校がつくられる。

『オリンピック前に具体計画』

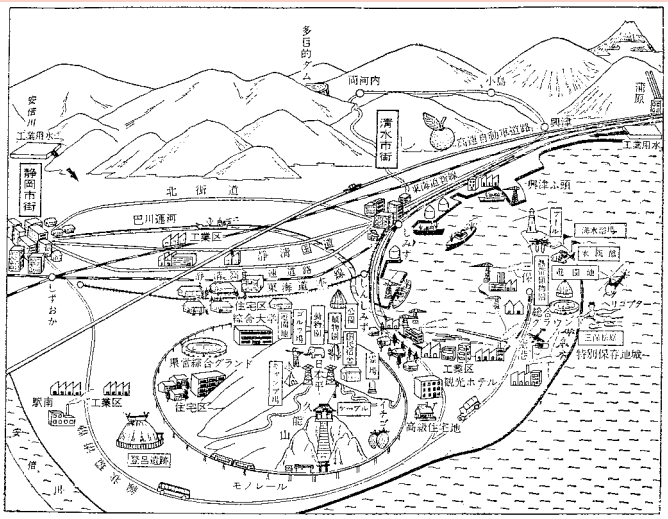
問題は、この『総合大学が建設される』で、昭和37年ごろから、新聞を賑わしはじめている。実は『構想』は実現しているのだ。それが『静岡県立女子大学』である。この大学は20年続き、昭和62年に、現在の静岡県立大学になるのだが、昭和39年が『東京オリンピック』であり、日本全体が上昇志向にあったから、こういう『構想』も出ていたわけで、今となっては『夢ものがたり』のような『清水・静岡間運河開削』も当時は『可能』と思われていたのである。

『構想図』を見ていただきたい。日本平地区だが、植物園、国民宿舎以外は実現しているし、『静岡大学』もやってきている。

『県立大学』も『総合大学』として考えられていたことが分かる。県民の長いあいだの『夢』として、この大学は待たれていたのである。

事実『開学式』（昭和62年４月20日）のとき、当時の斉藤県知事は『長いあいだの熱意を示すため、県民ひとりがレンガ一個を持ち寄った意味を持つ』として、当時の県民数相当の360万個のレンガがあると言われている。まあ今まで数えた人はいないのだが、どなたか挑戦されてみてはどうだろう？

（国際関係学部教授・高木桂蔵）



構想図（鈴木繁三氏作図）

21世紀COEプログラム合宿の報告

――積極的な意見交換でポストCOEに挑戦――

21世紀COEプログラム拠点リーダー　生活健康科学研究科　木苗　直秀

本学の21世紀COEプログラム「先導的健康長寿学術研究推進拠点」は平成14年度に採択されて以来、推進事業担当者20名を含む生活健康科学研究科と薬学研究科の教員が一丸となって薬食融合研究を推進し、さらに若手研究者の育成や、産学連携を進めてきた。今年度は本プログラムの最終年であり、さらに平成19年度にスタートするポストCOE獲得に向けた重要な年でもある。そこで20名の推進事業担当者（２名は都合により欠席）は、外部評価委員の廣部雅昭先生（前本学学長）の御出席を賜わり、ゴールデンウィークの５月６日（土）と７日（日）に、静岡市油山温泉郷にある油山苑において、意見交換会を開いた。拠点リーダーが現在までの研究・教育の進行状況を紹介したのち、KJ法と称する手法によりグループでポストCOEでやるべきことをまとめ、さらに全体セッションで討論を行った。６時間に及ぶ熱い討論会となった。その後、夕食をとり、さらに３時間余り本学が目指すポストCOEの理想の姿を求めて熱い討論が行われた。次回が待ち遠しいほど有意義な集まりとなった。

学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎！

教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル活動報告、ボランティア活動などの寄稿をお待ちしています。大歓迎します。

事務局経営課・企画スタッフ（管理棟２階）あてにお願いします。E-mail:kikaku3@u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集：静岡県立大学広報委員会（事務局　ＴＥＬ　０５４－２６４－５１０３）
静岡県立大学ホームページアドレス ： http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています